

フィールド自治体型政策研究会 Topics No.5

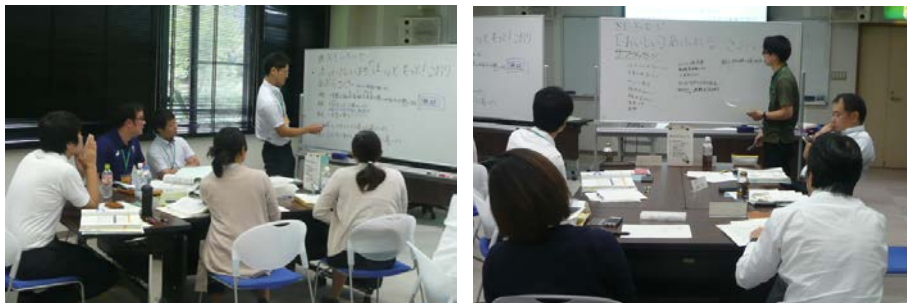
第5回政策研究会〈令和元年8月29日～30日 センター〉

センターでの宿泊型政策研究会を実施しました。

少子高齢化や人口減少が進展していく中であって、桑折町が持続的に発展するためには、桑折町の魅力やブランドメッセージを町の内外に効果的に訴求・推奨するプロモーションが重要であることから、先進事例から総合的なプロモーション戦略を重点的に学ぶことを目的に、センターでの宿泊型政策研究会を実施しました（政策研究会では初めての試みです。）。

◆ 第1日目

午前：私たちが考える「桑折町のブランドメッセージ」の完成を目指しました。



午後：ブランドメッセージの認知や関心を得るための施策をシティプロモーションの第一人者である河井孝仁教授が提唱する「メディア活用戦略モデル」の発想法を活用し提案の方向性をまとめることとしました。



◆ 第2日目

午前：昨日に引き続き、プロモーションの在り方について提案をまとめるグループワークを実施しました。さらに、午後からの奈良県生駒市いこまの魅力創造課課長補佐 大垣弥生 氏を交えた中間発表に向けてのグループ内打合せなどを行いました。

午後： **先進事例を奈良県生駒市の大垣弥生さんから伺いました。**

大垣弥生さんのプロフィール

- ※ 奈良県生駒市いこまの魅力創造課課長補佐
- ※ 民間企業で販売推進を10年間担当後、2008年に生駒市へ転職。広報広聴課で広報の改革、シティプロモーションの立ち上げ、採用広報等に携わる。
- ※ 2016年、「いこまの魅力創造課」に異動。市民PRチーム「いこまち宣伝部」の運営やアウトドアイベント「IKOMA SUN FESTA」の実施など、多様な主体との協働でまちの魅力づくりに取り組む。2017年「地方公務員が本当にすごい!」と思う地方公務員アワード」を受賞。



大垣弥生さんは、2017年、地方公務員が本当にすごいと思う地方公務員に選ばれた方です。「ハートを動かすプロモーション」と題して生駒市の事例をお話いただきました。



※ プロモーションの仕事は、とても面白くて、人の心を驚ばかみにし、行動を促す力があることが分かりました。

◆ 示唆に富んだ語録あれこれ ◆

- ★ 市民と行政がともに汗をかかないと自治体は崩壊する。
- ★ まずは課題を知ること。そして、課題解決のために何ができるのかを練ること。
- ★ シティプロモーションの究極の目的は、まちが10年先、20年先も発展し続ける仕組みづくりをすること。
- ★ 「人の心を アクセス（大阪からのアクセス）と行政サービス で動かすのは無理」<・転入してくる人に媚び、行政サービスの安売りするようなことをすると、どんどん財政が厳しくなる。>
- ★ 地域に思い入れのある人が主体となって新しい魅力を生み出していくことでしか、「らしさ」は創れない。
- ★ どうPRするかじゃない。どうやって魅力を増やすかである。
そのためには、街の人たちが、街のために何かしようと思える空気感を生み出すことが1番大切。
住む人に優しい制度や仕組みがあることは魅力的だけど、それだけで住み続けたい、ここで生きていきたいとは思わない。そこに仲間がいたり、誰かとのつながりがあるからこそ、その土地に愛着がわく。
- ★ 転入・定住がゴールじゃない。「ファン」を増やすことが大切。

などなど！・・・